

愛知学泉短期大学 2024 年度自己点検評価報告書 外部評価の概要

- 1 評価日 2025 年 2 月末日
- 2 評価者 外部評価委員 2 名
- 3 評価対象 2023 年度

外部評価委員からの評価書

評価者名	評価委員 I
1. 建学の精神と教育の効果について	
評価する 理由： 建学の精神を学内外に浸透させる工夫と取組が様々な形でなされており、それが貴短期大学の特色ある教育活動、地域貢献、高大連携教育等への意味付けにしっかりつながっている様子を感じました。 今後、貴短期大学が地域や高校との共創拠点としての機能を果たすためにも、この素晴らしい建学の理念をより幅広く発信していただくこと、より幅広い人材の活用を工夫されることを期待したいです。	
2. 教育課程と学生支援について	
評価する 理由： 各学科の特長を大切にしながら短期大学に求められる教育活動を着実に実施している様子と、それによる様々な安定した成果を感じました。 現状でも地域の短期大学としての役割を十分に果たしていると思いますが、生成 AI の発展等、社会の変化が急速に進む昨今にあっては、学生・地域等のニーズも更に速く大きく変化するものと思われます。現状の成果のみに囚われず、それらを見据えて大学の教育課程や学生支援の仕組みを柔軟に変化させられる仕組みづくりを期待したいです。	
3. 教育資源と財的資源について	
評価する 理由： 教育資源、財的資源ともの確な現状分析、課題発見、解決策と改善策の実施がなされている様子が伺えました。学生支援の課題として ICT 教育の更なる推進が取り上げられていましたが、学生教育はもちろん、経営効率の向上という視点からも大学の DX 化の推進は不可欠であるため、貴短期大学にとって最も効果的な DX 化プランの作成とそれに対応できる人材育成の計画 の立案を期待したいです。	

4. リーダーシップとガバナンスについて
評価する 理由： 建学の精神を揺るぎない基盤とし、明確な目的と目標にしたがって理事長と学長がそれぞれの立場ですべきことに的確に取り組んでおられる様子と、それと合わせてガバナンスが望ましい形で機能している様子を感じました。
5. 総評
報告書を確認して、貴短期大学が幅広い取組を詳細に点検・評価するとともに、それに即した改善 に積極的に取り組んでいることが伺えました。 今後も優先順位を的確に見極めて様々な課題の解 決に取り組んでいただき、貴短期大学が地域にとっても全国各地の高校にとっても更に不可欠な存在 となることを期待しています。

評価者名	評価委員 II
1. 建学の精神と教育の効果について	
評価する 理由： 建学の精神については、変化していく社会や学生に対して、基本を変えることなく維持しつつ、運用されている。そして、さまざまな資料や配布物、行事の理念などにも反映されており、その意義について多角的な理解と職員及び学生への浸透が期待される。 特に、公開講座、ボランティア活動など社会への貢献と融合に向けて、実践が継続的になされていることは、高く評価できる。 また、こういった学びと現実とのつながりについてはPISA 教育の視点を重視して行こうとする姿勢にも反映されている。	
2. 教育課程と学生支援について	
評価する 理由： 大学の根幹となる教育方針については、ディプロマ・ポリシーを明確にすることで、学ぶ立場の学生と教える立場の教員、そしてその活動を支える職員の思いを共有することに大きくかかわるが、それぞれの学科のめざすものを具体的に表すことによって一定水準以上に達成されていると言えよう。 また、学生便覧にも明記し、カリキュラムとの対応について理解しやすい伝達がなされているようである。学科ごとの特性について配慮しながら社会貢献へつながるために、資格取得や実務能力の育成に重きを置くことは、短期大学の果たす役割として説得力のあるものとなっており、ここで言う「建学の精神」「pisa 型学力」	

「社会人基礎力」の3つの方針が反映されている。 さらに、アドミッション・ポリシーにおいても、その一貫性は保たれており、学びのスタートと目標が示されていることは評価できる。 このような学びに関しての学生支援に加えて、学生相談やスクールバスの運行など生活面での支援も意識されていることは重要な点である。
3. 教育資源と財的資源について
評価する 理由： 教員組織、施設設備、図書の質と量等については設置基準を十分に満たしている。教員の研究についての大学としての支援、FD 及び SD などを通しての教員および事務職員の資質向上に対しても実践できている。 18 歳人口の減少の影響が迫ってくる中で、大学・短期大学は極めて厳しい局面を迎えている。いくつかの大学が大きな方針転換を図ったり、閉校を余儀なくされるケースも散見されるようになってきている。今後さらにその傾向は続いていくことが予想される。今後も今以上の工夫が求められることが必須であり、後手にならないような対応がなお一層望まれるところである。
4. リーダーシップとガバナンスについて
評価する 理由： 全般的に誠実に運営されていることがうかがえた。方針の安定性についても示されており、上記の厳しい状況に向かうときにおいても、効果的に示されることが期待できる。 そして、それらを広く公正に公開する姿勢が認められ、このことによる社会からの評価をうけながら、法令順守およびガバナンスを重視する姿勢が認められる。
5. 総評
総じて言えることは、現状の把握と理解、対象となる学生の特質の理解と育成目標の合理性、その教育を行う場としての環境の整備などが具体的に示されていることである。単なる理念にとどまらない、教育への姿勢が感じ取れるところである。 今後ともこの姿勢を維持していただきたいが、これからのニーズはさらに変化していくことが予想されるので、ガバナンスも大切にしながら柔軟な運営を行っていただきたい。